

国体県選抜選手・現代版組踊「肝高の阿麻和利」

6月30日、国民体育大会少年男子ソフトボール県選抜選手に赤嶺択斗君(3-3)、与那覇侑弥君(3-4)の両名が選ばれました。

両名に校長室で抱負を語ってもらいました。

赤嶺択斗君「全力を出し切り結果を残したい」与那覇侑弥君「本選に残れるよう頑張りたい」とあり、私からは「インターハイでは、君たちの試合を観戦することができなくて残念だった。県の代表として誇りをもって頑張っ
て欲しいと激励しました」

すでに、選抜選手在籍校三校合同の強化練習(於：嘉手納町海浜公園ソフトボール場)にも入っており、少々疲れ気味なのか二人ともあまり多くを語らない、しかし内に秘めた大きなエネルギーを感じさせる表情で、勝負にかけるニヒルさとスポーツマンらしい礼儀のよい物腰が印象的です。

ポジションは、赤嶺択斗君はレフトそして選抜チームのキャプテン、与那覇侑弥君はピッチャーです。二人ともG高の誇りを胸に、沖縄県の代表としての強い気概で頑張っ
て欲しいものです。



県選抜ユニフォームが誇らしい

7月3日、勝連のきむたかホールで、現代版組踊「肝高の阿麻和利」7月公演を鑑賞しました。

現在では、その活動内容と観衆に与える感動により県内外で極めて高い評価を受けています。頂いたパンフレットによると「2000年3月の初演以来公演回数通算277回、延べ16万人にご来場頂きました」とあります。

私は、4年前に一度、今回で二度目の鑑賞となりました。4年前は、躍動感溢れる音楽とひたむきな演技にあまりの感動で、ただただ涙腺崩壊の憂き目に遭いましたが、今回は冷静に？ 演出と様々な舞台効果そして音楽とダンスを総合的に鑑賞する事ができました。この取り組みの凄いところは、当日の舞台だけではなく、日頃の練習や稽古をとおして子ども達の居場所や人材育成、地域興しの場として脈動していることに尽きると思います。

その証として、子どもたちを支える大人達(サポートスタッフ)の多さ、そしてその活動の“ひたむきさ”は子どもたちのそれに勝とも劣らないものです。まさに地域が一丸となって取り組んでいる姿がそこにあるのです。

フィナーレに阿麻和利役の佐久本宝君(3-4)が「僕たちがこのような舞台に立てるのは、～ 略 ～ ここにいらっしやる全ての方のおかげです。ありがとうございます」とお礼を述べた後、会場が割れんばかりの拍手に包まれたことは言うまでもありません。

本校の生徒は14名が出演しました。以下に紹介します。

阿麻和利：佐久本宝(3-4)、長者の大主：島乃大知(2-1)、平安座ハッタラー：仲井間稜(2-2)

女性アンサンブル：新里菜々子(3-2)、田場絢華(3-5)、祖堅沙綾(3-4)、天願媛樺(3-4)、古謝琴巳(2-2)、玉城舞子(2-5)、安里千代乃(2-3)、知念姫菜(2-6)、赤嶺宏奈(2-1)、田場百華(1-4)

バンド：蔵本舞華(3-3)パーカッション

